

第8回丹波市地域資源活用懇話会  
〔大阪・関西万博〕丹波市活性化推進委員会 議事録

1. 日時 令和5年6月7日（水） 15時00分～
2. 場所 春日住民センター大会議室
3. 出席者

○懇親会委員（11名）

- 1号委員 関 美絵子
- 2号委員 藤井 和枝 竹内 真子 鴻谷 佳彦
- 3号委員 荻野 祐一
- 4号委員 田辺 真人 中野 浩明 大木 玲子
- 5号委員 濱田 亮光 植地 惇
- 6号委員 中井 昌彦

○事務局

4. 協議事項

(1) 大阪・関西万博を見据えた丹波市の観光振興事業（案）について

5. 開会

事務局：定刻になりましたので、ただ今から第8回丹波市地域資源活用懇話会を始めさせていただきます。今回ご協議頂きたい内容は、2025年大阪・関西万博が開催されますが、それに係る丹波市の観光振興事業について事務局の案についてご意見を頂きたいと思っております。

最初に会長挨拶をお願いいたします。

6. 会長あいさつ

～田辺会長挨拶～

7. 委員紹介

～交代のあった委員の挨拶（2名）～

8. 会議名称

事務局：次第にはありませんが、今回の懇話会は、大阪・関西万博を見据えた丹波市の観光振興事業を検討することとなりますので、この会の名称を「大阪・関西万博」丹波市活性化推進委員会として進めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

また、今回説明させていただきます内容については、今のところの案ですので、予算化されているとか確定された内容ではありません。この委員会で色々なご意見を頂きその案を練り上げていき来年度以降の予算要求を行っていきたいと考えております。

田辺会長：委員の皆様で、地域資源活用懇話会の名称を新たに「大阪・関西万博」丹波市活性化推進委員会に改めることについてよろしいでしょうか。

委員：

～異議なし～

田辺会長：会議に入ります前に、委員の皆様にお伝えいたします。本日、報道の方の傍聴の申し出がありましたのでこれを許可しております。

## 8. 協議事項

田辺会長：それでは、(1) 大阪・関西万博を見据えた丹波市の観光振興事業（案）について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：～資料について詳細説明～

- ・兵庫県の動向について
- ・丹波市の方向性について
- ・丹波市の取組（案）について  
(リージョナルデーでのPR、大阪市内でのPR、丹波市内でのPR  
丹波布周遊パスポート、デジタルマップ、移動手段の支援)
- ・成果指標について
- ・委員からの事前意見について

田辺会長：説明を受けましたがご質問等はございますか。

委員：万博に向けて色々な市町が施策を打ってされていくだろうとっていて、丹波市がこういうことをやっていこうとしているのは良いこととっていて、丹波らしいことができればとっています。意見として、リージョナルデーでのPRですが、今、佐治俱樂部では静岡市の人を受け入れていて、それが丹波市における大学連携全体の取りまとめをするという地域おこしの方がいて、それで色々な大学が丹波市に関わっていて、関西大学、関西学院大学、武庫川女子大学など6つくらい丹波市に関わっている。丹波市にお客さんと呼び込むというかPRをしに行くのは面白いとっていて、大学生も巻き込んでPRするとか地域おこしの方が丹波市に来ているのでその人を巻き込みながらPRが出来れば良いなと思いました。

あとTAMBAミニ博ですが、私が関西大学の研究室にいたときに大阪ステーションシティの5階の時空の広場で研究室と大阪ステーションシティとのコラボイベントでインスタレーションのような企画を何回かさせてもらったことがある。5年ほど前の話にはなりますが、もし、そういうところでのご協力ができると思いますので何かありましたらお声かけ頂いたらと思います。

田辺会長：ほかの委員さんはどうですか。ご意見、ご質問はありませんか。

委員：PRの関係で思ったのですが、丹波市は花が大変きれいな市であると思っ

ています。年間でも桜で始まり、今はアジサイ、最後には紅葉というところで丹波の花ということと、昔から伝わる伝統芸能とかお祭りといったものを外に発信していけば、丹波というところはこういうところかというイメージをより一層持ってもらえる。また実際に若い方でもこんなところがあったのかと再認識していただけたらと思う。

もう一点は、レンタカー、タクシーのことですが、可能であれば貸切ハイヤーの利用ができないか、お客様に対してタクシーでしたらここ回ってください、ここ回ってくださいとなると相当距離があり、タクシー業者もあちこち行って大変じゃないかと思しますので、こちらの方で貸切タクシーとAコースBコースCコースといった感じである程度コースを決め、それに対してお客さんがコースを選んで申込をしてもらう方が、各地域に落ちるお金も把握できるのではないかと思います。可能であればレンタカー、ハイヤープラス貸切タクシーの利用、場合によってはジャンボタクシーなどでお客さんを周遊して頂くことができないかと思えます。今回やる施策で丹波市として求められているのは、よりきめ細かなお客様への案内と思えますので、きめ細やかさが各箇所に出るような取組をしていくことがおもてなしとして大事だと思いますのでご検討いただければと思います。

田辺会長：先ほどの後半部分の貸切タクシーというのは、補助というよりもコースを作っておいて提供するということですか。

委員：そうです。お客さんがコースを選ぶというものです。お客さんの中にはどこに行ったら良いのか分からない方もいるので、せっかくならこのようなことができないかと思えます。

田辺会長：移動の面について、来訪者に任せて利用してもらうだけでなく、こちらの方で効果的なコースも設定してはどうかというご意見です。

他にはございませんか。

委員：5年ほど前に商工会女性部の全国大会を神戸でやった時に、北海道から沖縄まで約2千人の女性が集まったのですが、女性はお土産をたくさん買います。当時、おもてなし街道として7つのブロックに分けて、ここへ行かれませんかというプランを立てたが、残念ながら神戸とか阪神間は多かったが、丹波市に来てもらえる方はなく、播磨や姫路の方は何百人という程度であった。なぜ播磨やったのか。八千代には素敵なお土産があった。それをエーデルささゆりでワークショップ的なことをしながらお土産の鞆を播州織でされていたので沢山来られていた。ポートピアホテルで一番売れた土産は丹波市でした。あつという間に売れて業者が取りに帰ったぐらいで、黒豆の枝豆の煮豆を売ったら1時間ぐらいで売れました。万博会場に来られる前にPRする。皆さん予定を立てて来られると思うので、商工会

でしたらじいろタブレットはすごく良いという評判で、見たら行きたくなる。PR方法は内容次第で活かされると思う。

田辺会長：他にはございませんか。

委員：3点。されているかもですが、市役所の方で旅行者にセールスされているのか。例えば丹波ならこういうツアーができます。丹波市の魅力やツアー提案されているのかなと思います。大阪の旅行者でしたら丹波市で黒豆体験ツアーとかやっていますので、例えば丹波大納言小豆の里でスイーツを満喫する旅とか色んなプランが出来ると思うので積極的に旅行者にアピールをされたらどうかと思います。

二つ目、たんば黎明館をスポットにするのは良いと思いますが、黎明館だけだったら限られたスペースしかない。点になってしまいますので、ゾーンで捉えてはどうかと思います。隣に陣屋もありますし、例えば陣屋でアートの展示、古典芸能とか、旧柏原支所も何かに使えないか。来年はちょうど柏原八幡宮は千年になりますので八幡宮も入れてはどうか。さらにスイーツフェスティバルを柏原住民センターでしていたが。こちらに持ってくるのかいうのもアリではないかと思います。開設期間をずっと同じものではできないかもしれませんが、期間中に大きなイベントをやって集客を図るというのはどうでしょうか。

三点目、移動手段ですが、貸切タクシーというのがありましたが、10年ほど前に県民局がされた事業がありまして、丹波市観光客の閑散期にいかにお客さんを呼び込むかということで旅行者に応募してもらい、旅行社がそれぞれプランを立てて貸切タクシーで回るという事業をされたのですが、思ったより効果がなかったことから2年でその補助が終わったという過去がありますので、この移動手段に関してはその時のなぜうまくいかなかったのかの洗い出しが必要かと思います。

田辺会長：他にはございませんか。

委員：万博はそもそも誰が来るのでしょうか。世界からですよ。日本国内だけでしょ。

田辺会長：未だにエキスポセブンティの幻想が生きているところで、あの当時、実物が見れるというのが不可能な時代に、実物が来たから見に行ったので全国から人が集まった。当時外国からは安く日本に行けたので多くの方が来た。今はインターネットで世界中と接することができるが来る人は来られる。私が思うには、全部を体系化して、海外から来る人に向けては何をするのか。全国から来られる人に対しては何をするのか。県内から来る人に対しては何をするのか。それによってある程度中身や方向も分類する必要があると思う。もう一つは万博の期間がきっかけで事を起こすけど、それを永

続的に丹波市の観光施策として使えるものか、万博が終わったら終わるものなのかを分ける必要がある。色んな意味で分類した方が良いと思う。

委員：丹波には色々な特産物とか誇れるものであったり食べ物があったりする。私たちがよそに行ったときに自分が住んでいる日常から非日常を求めてどこかに行く。その時に、丹波市であったら丹波篠山でなく丹波市に行きたいと思えるものや、例えばキャッチフレーズ、一生に一度は行きたい丹波の原風景とか、そういったものを出さないで似たり寄ったりになってしまう。リピーターとして来てもらえるようにもう少し考える必要があると思う。

田辺会長：他にはございませんか。

委員：万博はミラノ万博とかそのようなレベルのものでしょうか。

事務局：万博の協会から発表されているのは、万博期間6か月間で2千8百万人のお客さんが来られ、そのうち3百万人がインバウンドであると想定されています。世界から各国から出展され、また民間や自治体なども出す予定で考えられています。前回のドバイと同様の催しになるだろうと思います。

委員：多分そうとなれば環境問題が大きく取り上げられると思っています。そうなっていくと意識が高い方、地球を何とかしていかなくてはとか、環境をどうにかしなくてはといった意識の高い方が万博に来られると想定したら、そういったお客さんに丹波の有機農法といったものを前面に出したりとか戦略は必要ではないか。また誰に来て欲しいとか。何が強みなのか。これをきっちりPRできたら遠くからでも来られると思う。風呂敷を広げるのももちろん手ですが、ちゃんと万博に来られる方を分析してその人たちに響くポイントが丹波にはあると思うので、きっちり押していくだけでかなりのお客さんが来られると思います。

田辺会長：いかがでしょうか。

委員：ひょうごフィールドパビリオンということで、私たちのフィールドが兵庫ならではのSDGsということで、プログラムの提供者は丹波市で何組あるのですか。

事務局：今現在の数としては、全体で130程度、そのうち丹波市では7プログラムが挙がっています。隣の丹波篠山市は10プログラムです。

副会長：どんなものが挙がっているのか分かりませんが、その中には魅力あるプログラムがあるのではないかと思います。私も地域でプログラムに手を挙げている。実際に来てもらって農業体験してもらってというもので、農家さんが言うには、収穫するだけではなくて、草刈りするのも皆が楽しんでやっていく。それを何回か繰り返すうちに、私の田んぼ、私の畑といった感覚で体験してもらえる。前日、うちでも田んぼで田植えの体験で30人ほ

ど来てもらった。ほとんどの方が去年から田植えにずっと来てくださっている。そうやっていくと、どんどん丹波のことを知ってもらえて帰りにお土産を買って帰られたり、農作物でこんなものが美味しいだとか、どんなものがあるとかファンになってもらえているという感じがある。そういう人たちをいかに拾っていくか。ただ農家は、農家でそういう人が来てくれるための手配をすることがすごく大変で、農繁期だとかにメールで行ってもいいですかどうですかといわれても困ってしまう。その対応ができないというがあるので、体験はしてもらえなくてもどこか事務対応ができれば農家を集めて農業者の中で体験してほしいというのはあるのだけれども、そこをなんとかできれば色々体験できるのと思っています。

田辺会長：具体的なお意見ですけれども、農業体験に受入できるけれども、その対応が各農家では余裕がないという。例えば万博に関する期間だけでも市の方で臨時のスタッフでも考えてもらって、一手に引き受けて丹波市への農業体験希望者を募って各農家にそれを割り振ってもらえるような。やってみてあまり効果がなければ止めたらいだけのことですので、仮に大きな効果ができれば万博後もやっていくなど、万博に向けて試行が色々出来たらと思います。

いかがでしょう。

委員：私も思っていたところもあったのですが、きめ細やかなと言われましたが、まさにその通りで、このようなことの中身の仕組みも作らないといけないというのもあります。来訪者は予定を立てて来られるので、きちんとPRをしておかないといけないと思います。

田辺会長：他にはどうですか。

委員：会長はじめ何人かの委員さんが大事な事を言われましたが、この万博開催を機に今後何をするか考える場とあって、去年1年間通してユニティプランの改定をして、丹波の観光の強いところ弱いところを洗い出したと思いますが、これを機にどういう風に強いところを伸ばして弱いところをなくしていくかということを考えていく必要があると思います。その上で、先ほどからこれも何人かの委員さんが言われていましたが、ターゲットの明確化というのもしっかりしておかないといけない。下手な鉄砲もなんとやらで、数撃ったらみたいなやり方は効率的ではないかと思います。ひょうごフィールドパビリオンのSDGsが出ましたが、SDGsでレンタカーとかタクシーにお金を出すとすると、ちょっとやっぱり相反しているのかなと感じているところがあります。そこは例えばE-bikeを使って回ってもらって移動してもらうことにインセンティブを与えるなど、そういうやり方もあるのかなと思います。あと、パスポートで、加盟された店

舗を回ったら 300 円割引があるという話ですが、例えば市の施設に行ったら無料で入れるとかも考えておられるのでしょうか。

田辺会長：パスポートは市の色々な施設においても使えるのでしょうか。

事務局：例えばちーたんの館や水分れフィールドミュージアム、植野記念美術館など有料施設ですので、市で調整しながら入館料が無料になったりノベルティを渡すなど検討できればと思います。

田辺会長：一つ質問ですが、意見集約のパスポートの7の最後に、加盟店に1万円支払うというのは具体的にどういうことでしょうか。

事務局：案ではありますが、業務設計にあたって300円の負担を市が委託料でみるという考えもありますが、加盟店になってもらう業者には一定の集客があるだろうというところで割引は加盟店で負担してもらう。その代わりに協力金として1万円支払うというものです。

田辺会長：弱気ではないでしょうか。パスポートを発行して沢山の人がこれを買ってもらったら沢山の店が潤います。ですから、加盟店から1万円とるという勢いを持ってやらないと、ビジネスとして逆だと思います。もっと自信を持ってやらないとと思います。

事務局：ご意見を参考にしながら練っていきたいと思います。

田辺会長：他にありませんか。

委員：丹波の特色は個人的に農業、そこを押ししていければと思っています。観光ツアーで、今、読売観光と観光協会とコラボで過疎地域の山南と青垣で日帰りのツアーを企画しているところで、今年の9月10月頃になると思いますが、読売観光が関わっているので、お繋ぎできることがあるなと思っています。どこにでもあるような観光というよりか丹波らしい登山とかというところで進めてもらったらと思います。

田辺会長：今言われたように、兵庫県や日本全体をみて、丹波市はそんなに観光都市だとは思っていません。そうすると、よそがやっている総花的な観光プロジェクトを立てるよりも、もっと絞って、沢山来てもらうのではなくて、これに関心のある方には来て欲しいというやり方を、やっぱり食べ物でいうと、大納言小豆や黒豆ですけれども、黒豆は三田の農協でも売っている。阪神間から来ると三田で止まってしまう。ここまで来るといって大納言小豆もそれほど売れていません。来た人にそれを丹波にあります。これは他にないから行ってみる。核になる。そうすると丹波竜。他に恐竜でいうと福井の方だけです。丹波市の方が近いし行ける範囲で、もっと売り出せるものである。それから薬草も健康志向が強い薬草薬膳あと薬草湯がありますが、もっと薬膳の何かを考えて丹波はこれだというのを出していく。それに女子高校野球はもっともっと前に出していく。パラグライダーもそ

うだと思えます。パラグライダー人口は少ないですが、丹波市はそれぐらいでいいかと思えます。あとは秋のもみじ、例えば箕面がやっているもみじの天ぷらを作ってもらおうとか。食べ物との関りは大事だと思います。水分れ公園もここだけというのを大々的に持ち出したらいいと思う。水分れ公園にグランピング施設を開設するのはどうですか。先ほどの説明で、宿泊施設を作るのは余裕がないというようなことでしたが、大阪・関西万博を見据えた観光振興事業（案）の方向性で、地域にお金が落ちることを目論んでいるけれどもいくらお金をかけるのか言われていない。儲けようとしたらお金をかけないといけない。そのお金をかけるのに例えばホテルとまでは言わないがグランピングぐらいならやるとか。そうしないと観光客は来てほしいけど宿泊施設は無い、初めから諦めのような政策は止めて。グランピングに批判的な方がいるが、核になる方が集まってくると思えます。

丹波布も弱い。これが西陣織なら。せいぜい播州織でも人があまり来ない。恐竜で来た人に丹波布があるんですよといった1回目で何をキャッチするか。そこに来た人に次善のものを売込むという作戦を具体的に立てていく必要がある。SDGsとか有機農業とか丹波は強みですが十分に発信できていません。丹波の主要道路は高低差があまりない。そうすると今自転車が広がっているので、自転車で回れるようにコースを、健康志向と合わせて環境問題も含めて考えたらいいかと思えます。

委員：交通の関係ですが、昨今高速バスの問い合わせが多くある。青垣の方に行きたいや氷上の方に高速バスで行きたいとかある。広いところで大阪、神戸なら神姫さんが運行している。丹波市に来るアクセスとして高速バスは有効で、場合によっては城崎まで行くバスがあって、途中で丹波に寄ってもらえるという意味ではそちらに目を向ける必要があると思えます。インバウンドも安いことが求められるのでバスできて自転車で回るなど一つの行程のようなものができればいいかと思う。

田辺会長：三木の人は圧倒的に神姫バス、神戸電鉄はそれで大変だという状況です。有馬温泉も賑わっているのは観光協会が手掛けていて、新大阪駅や京都から複数の会社でバスを運行している。丹波市内で長距離バスを乗り継ぎの情報を、次のバスを待つまでの間をこれだけ回れますよというのを上手にまとめる必要がある。安定した大量輸送というところで観光ではバスで安い旅行を発信できるようにする必要があると思えます。いかがでしょうか。

委員：一番最初に思ったのが、フィールドパビリオンがそうですが、丹波市内は7つしか出ていません。7つの中で3つが県民局の関係で出しているもの



になります。ゆめの樹さん、丹波サイクリング協会さん、農家民宿岡田さん、西山酒造さんの4つしか民間さんから出ていない状況ですので、もっと来てもらうと言うのであれば丹波市ならではのコンテンツをいっぱい作っていくことが先かなと思います。あと、周遊パスポート良いですが500枚の限定販売というのは寂しい。500人にしか売れないというのはちょっとどうかと、これは今後検討されるとは思いますが、あとは、タクシーとレンタカー補助について、10年前のおもてなし事業で県民局が実施したと思います。その時の課題とかを丹波市さんにお知らせします。これをされるのに1人1万円補助で予算が5百万円、500件利用者に領収書など求めて確認していくとなるとそれだけで大変になると思いますので、これはもう少し方法を考えられた方が良いかと思います。最初から周遊タクシーのようなものを作り出しておいて、それに対して利用者に補助していくとかなしないと、いきなりタクシーを使って丹波市を周遊しようとはあまり思わないのではないかと思う。事務局の手間も考えてされた方が良いかと思う。

田辺会長：考えてみたらパスポート500枚も弱気ですね。1つのお店が目標にされるなら分かるが市全体でいうと桁が違ふと感じる。タクシーやレンタカーはここまでは鉄道で来られてということになるのでしょうか。

事務局：市内の業者のタクシー業者やレンタカー業者もありますが、利用される方からいうと、大阪からレンタカーを借りて来られるという場合もありますので、必ずしも市内業者のタクシーやレンタカーでないといけないう訳ではありません。利用者に補助をするということになりますので、その辺も含めて考えていきたいと思います。

田辺会長：続けて移動する手段としては、自転車と電動自転車は楽ですので事故の問題もありますが、サイクリングというのも一つ考えて頂きたいと思います。フィールドパビリオンについては、万博期間中に実施して好評であれば継続していくことで良いかと思います。個人的には意見集約の1番にある丹波竜に関する事、薬草健康に関する事、女子高校野球、パラグライダーでパビリオンができませんか。

事務局：丹波竜に関しては、県民局の関係になりますが丹波竜化石フィールドミュージアムで人博と篠山とつなぐようなことをされます。

田辺会長：つなぐのはそれでいいですが、丹波市としてはその中でも丹波竜なんだと打ち出すようにしないと。女子高校野球は万博期間中のパビリオンとしてできませんか。せっかく大事な資源ですからそこに訪れるような仕掛けができないかと思います。

事務局：検討していきたいと思います。

田辺会長：他にありませんか。

委員：丹波ええとこナビで映像を流されていますが、そこだけで流すのはもったいないので、デジタルサイネージを使って例えばゆめタウンの広場のモニターで流すとか、駅でも流せたら良いかと思います。

委員：女子高校野球に関してですが、丹波市は結構女性が輝いている町だと思っています。あまり知られていませんが、おさんや田ステ女、日本女子大学の校長をされた井上秀など結構丹波市は女性が活躍したというところで、女子高校野球がされているというところをフューチャーして欲しい。

田辺会長：いかがでしょうか。色々ご意見が出ました。もう一回会合をもつということですので次の日程調整を事務局お願いします。

事務局：

～日程調整～

事務局：今回は7月3日（月）午後3時からのこの場所で開催となります。それでは最後にご挨拶をお願いします。

## 9. 閉会

副会長：これを持ちまして閉会いたします。ありがとうございました。